

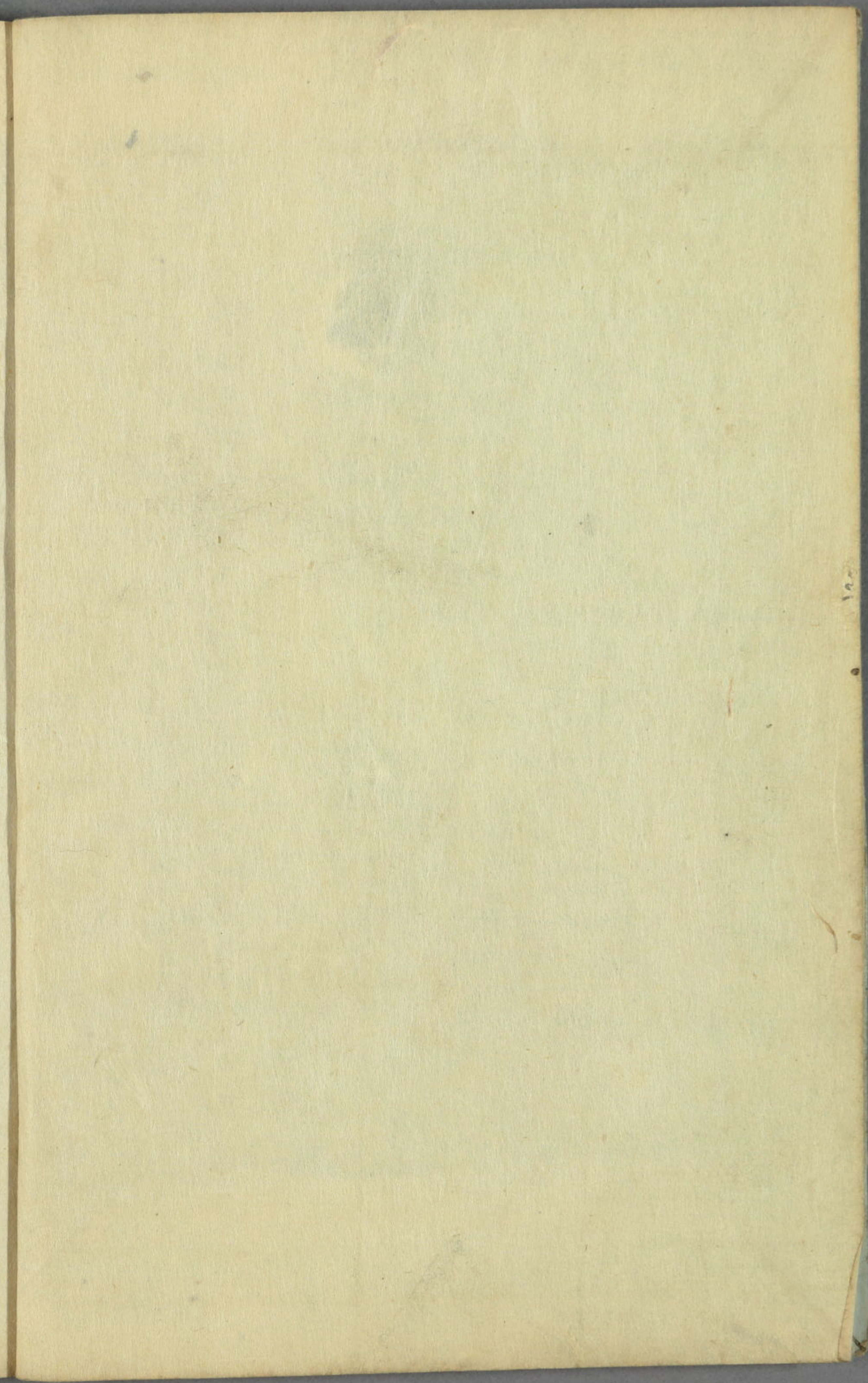
唐詩選畫本

七言絕句
四





疾風



春思

賈至

春風不為吹愁去 春日偏能惹恨長
柳色黃 桃花紅 亂李花香

春風不為吹愁去 春日偏能惹恨長
柳色黃 桃花紅 亂李花香





こゝろのひさしをさけのりをのちにあらうて柳たてがせいのたれまつてあゝんつろのさけのうにまを
 のかむやわたまきん六ひさけのまどびのやふた名たうひさけとかえんでのむもきこゝろ又さけはとまのまを
 はかきこゆぎおあどらせうちやまひたふとで目がらわく大せいりこんでさきりうとすのれ
 むけいさくのドもがせうちうこのおでほはまひなをわけていれとまれハおるくはひのたのーまはとん



其二

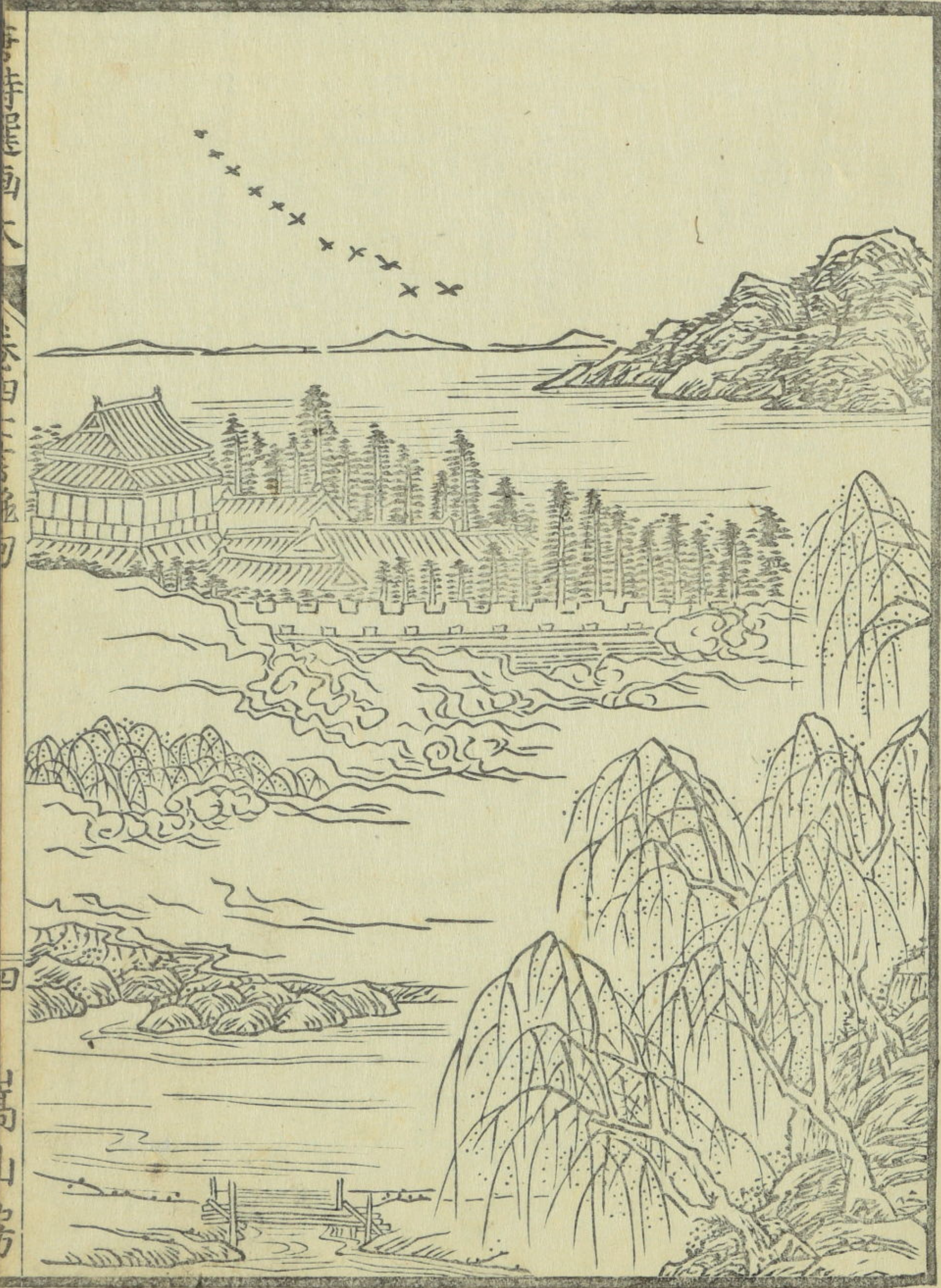
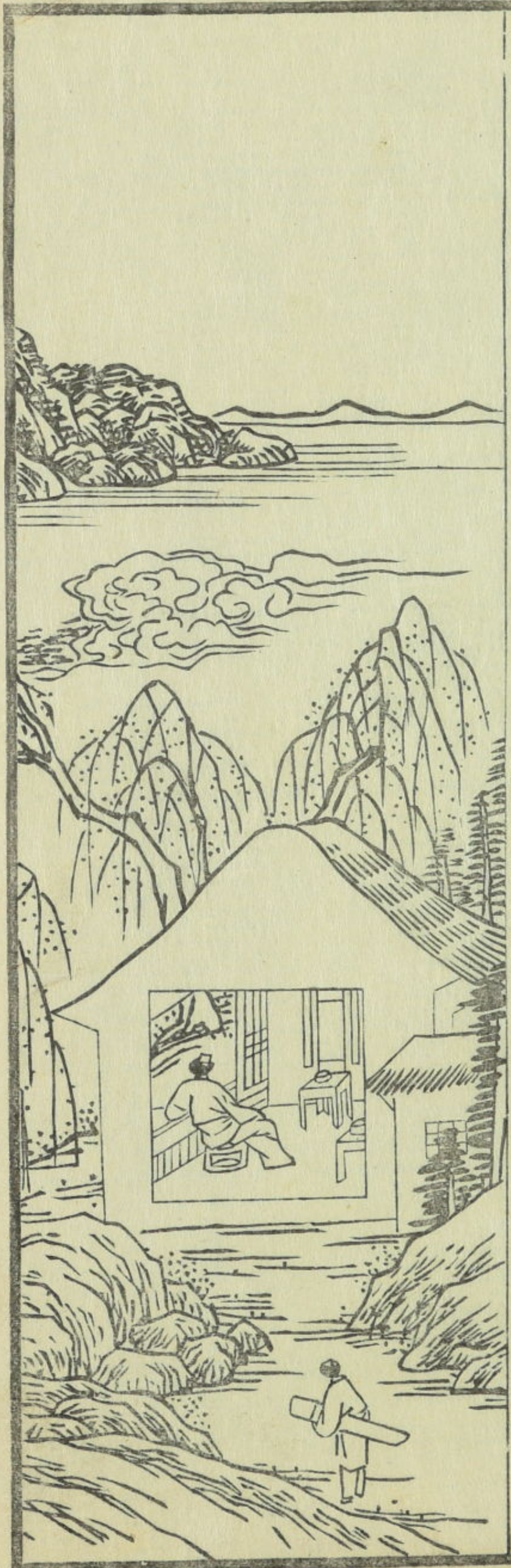
紅粉當壚弱柳垂金花臘酒解酴醾
 笙歌日暮能留客醉殺長安輕薄兒

唐詩選 卷四 其四 其二

西亭春望

賈至

ひたらく 日長
 風暖柳青
 北雁帰飛入窠
 岳陽城上聞吹笛
 能使春心滿洞庭
 春心のうちにいなほややくこめある左遷のまも春とらみかたけむるも二つありあるたさる
 こころあふふととせけいられいそひきおこしたるをかんするんちて海洞をこころかもうれいなる





初至巴陵與李
十二白同泛洞
庭湖 賈至
楓岸紛紛落
葉多洞庭秋
水晚來波
乘興輕舟
每與白雲
明月吊湘娥



南國のそりやうあそり
させんせんきてきさり
。 楓岸紛紛を 楚辞の
字なりあまのぶあゆ
さのそみぢなるもあ
らりみどきさのそち
さみりりし水の西を
秋風がやくゆちなる
ちやちよ 屈系がこ
づる
左遷のそなれえと
んちよも 屈系と
境界
舟にのりて洞のそ
もたのりまきし
やうにそりもた
たは白雲のそり
のねが、 湘君のび
とるそりいそあ
そり、 國字解

送李侍郎赴常列

雪晴雲散北風寒

楚水吳山道路難

今日送君須盡醉

明朝相憶路漫漫

賈玉

雪と見えてあつた由さるるれ予もそれ
ちつこの予もあつた由さるるれ予もそれ
すこいそえ常列へゆりゆりそのそえ
へいちもかゝ道難難の
まゝくゆきにまきまら
すゝである
今日さりとす、あつた
十人のんであつた



つとこれよたのせつれい

りつあふるやうなれい

路漫漫とこころ

あつたあつた

胡濟野

安西

神

西出陽關

勸君更盡一杯酒

西出陽關

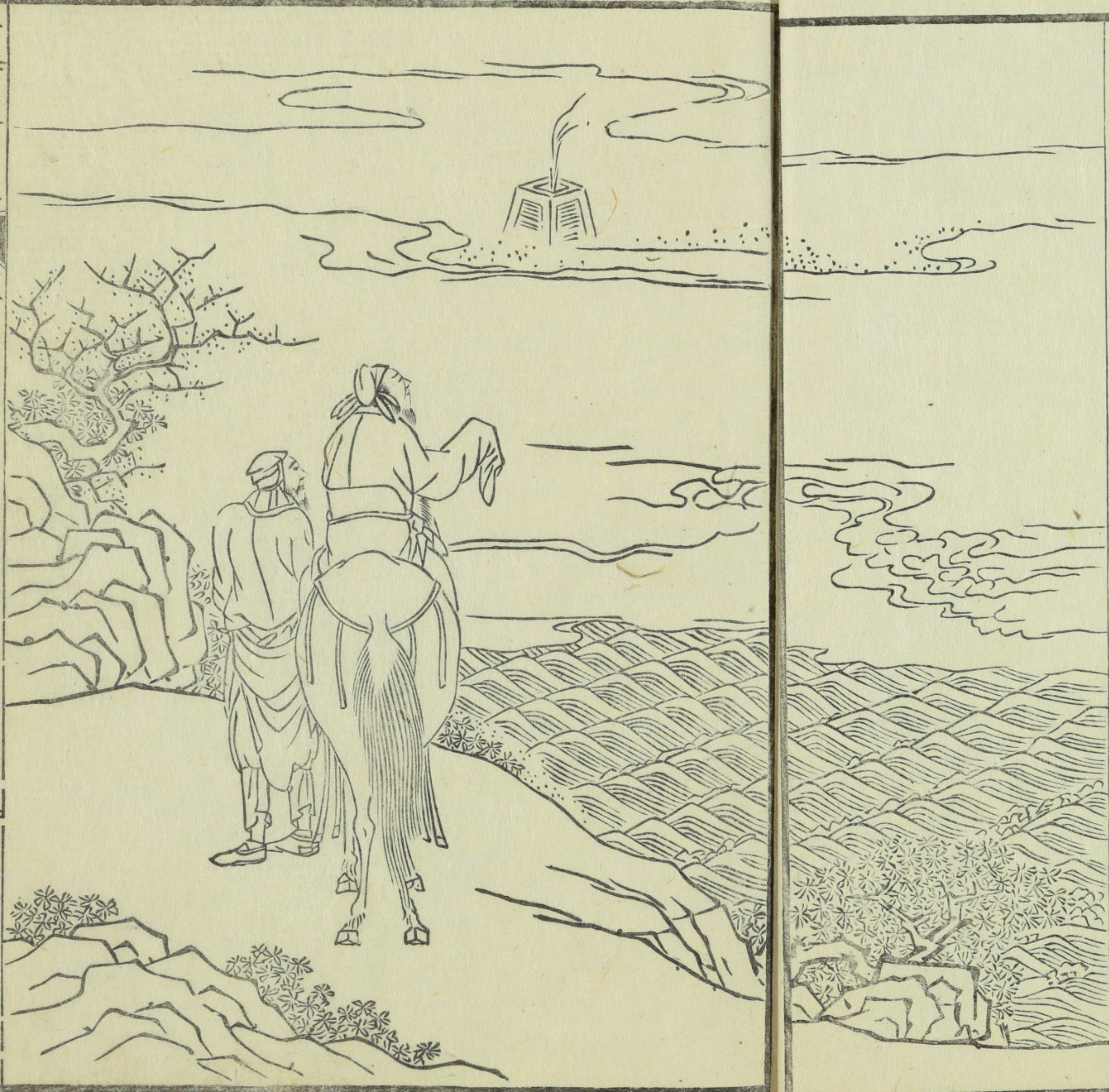


首蓂烽寄家人

岑參

首蓂烽邊逢立春胡蘆河上淚沾巾
閨中只是空相憶不見沙場愁殺人

首蓂の邊に逢ふ春胡蘆河上涙沾巾
閨中只是空相憶不見沙場愁殺人
首蓂の邊に逢ふ春胡蘆河上涙沾巾
閨中只是空相憶不見沙場愁殺人



逢入京使

岑参

故園東望路漫漫，雙袖龍鐘淚不乾。
 馬上相逢無紙筆，憑君傳語報平安。

見れぬへさへもさういれぬ。こきやうのみちいまよとさういふ。みやこのつらいうあふたれば。なほを早れて。あ方のそでにならぬとさういふ。かましくまもなほ。りやうさうあまやも。一ひとさうさす。こきやうの状とたのたけれど。鳥のうくたれ。紙筆。ハ。た。た。さうさういふ。すいぶんさうさういふ。りやうさういふ。



唐詩選画本
 卷四七言絶句
 逢入京使
 岑参

磧中作

走馬西來欲
到天山

辭家見月兩

回圓

今夜不知何

處宿

平沙萬里絕

人烟



人烟

平沙萬里絕
人烟

處處無人烟

只有黃沙白

草花

處處無人烟

只有黃沙白

唐詩選畫本



卷四十七

唐詩選畫本



卷四十七

赴北庭度陇思家

西向輪臺萬里餘也知鄉信

日應疎瀧山鸚鵡能言語

報家人教寄書 岑參

此詩の意は、西へ向つて萬里の遠くにある北庭に赴き、瀧山に鸚鵡を飼ひ、その能く言語を解する事を知り、家人に教へて書を送る事である。...

一四紙屋号

池上香花主



